

2025/10/7 (火)

後期始業式

聖書 ペトロの手紙 一 5章 7節 (新約聖書 424 頁)

一切の思い煩いを神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

独りではない

昨日六日は「十五夜」でした。なぜ十五夜と言うのでしょうか。また「中秋の名月」とも言います。どう違うのでしょうか。また「仲秋の名月」とも言います。どう違うのでしょうか。なぜと問いが浮かび、違いがわかると世界が広がります。そしてつぎつぎと想像が膨らみます。いくつになっても新しい世界を知るのは、子どものように心が踊ります。

昨日ノーベル生理・医学賞の発表がありました。日本では坂口志文(しもん)さんの「制御性T細胞」発見です。人体はウイルスや細菌に感染すると免疫が守るわけです。しかし自分の免疫に過剰に攻撃する細胞の働きを発見し、またその働きを制御する細胞も発見されました。ただその研究には長い孤高の、冬の時代があったそうです。

冒頭の「一切の思い煩いを神にお任せしなさい」は信仰の篤い人の言葉のように思うかもしれませんが。しかし実際は聖書、礼拝、信仰の告白も定まっていなかった教会形成の途中で、不安定な、試練の時代でした。ユダヤ教の妨害、分派分裂、異教の影響、ローマ帝国から拷問を受け、仲間が処刑され、棄教者が続出した暗黒の時代でした。

何かを信じ、信頼して歩むのは、信仰の道と科学の道はめざすところは違うと思います。しかし結果の出ない、誰も認めない、誰のせいにもできない、ただ信じた道を歩み続けるしかない。どちらも孤高の、たった一人の旅です。でもすべてをお任せして歩み続ける人には、心にかけて共に歩んでくれた存在に気づくのではないのでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、本日より本年度後期が始まりました。後期は大事な行事も多く、新しい年も迎え、受験、入試、卒業、進級と度々節目を迎えます。どうか日々自らを振り返り心と身体を休めると共に、すべてをあなたにお任せして、結果を恐れることなく与えられた道を信じて歩み続け、積んでは崩れ、崩れては積み、互いに慰め、励まし合いながら歩ませてください。そして新しい出会いと交わりを通して、新たな世界を感じ、想像し、学ぶ喜びに与らせてください。また世界各地の災害、激しい争いにある人々を覚えて祈ります。どうかわたしたちを平和の器として用いてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように導いてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン